

02 演習事例

大分太郎さんは、支援学校高等部卒業間近の現在18歳の男性です。療育手帳B2（ADHD,ASD）を所持しています。現在、支援学校に通いながら放課後等デイサービスZへ週3日通所しており、3月末まで利用予定です。卒業後は、高等部で実習を行った就労継続支援B型事業所の「しいたけ園」を利用していくことが決まっています。

【学校の様子】

中等部の頃は、甘えが強く注意されるとすぐに泣いたり、言葉使いや態度を注意されたりすることもありましたが、なかなか素直に聞き入れることができませんでした。しかし、高等部2年の頃から生徒会活動に参加し、成功体験を積み重ねてきたことで、約束を守ることや下級生との関わり方、丁寧な言葉使いなどの面を少しずつ意識できるようになってきました。働くこと、自立した生活を実現することなどについて卒業までの期間学びを深めています。

【自宅の様子】

母親に対して横柄な態度を取ることが多く、母親自身も子育てに悩んでいる様子です。また、ゲームへの依存心が強く、睡眠不足になりがちです。お金の使い方については、自宅やデイサービスで訓練を積み重ねていますが、計画的に使用していけることを目標にしています。

【しいたけ園での実習の様子】

- ・遅刻や欠席は無い
- ・興味のない作業に対しては気が散ることもあるが、声かけ等の指示でまた作業に戻れる
- ・弁当やパンの販売が好きで、自分が得意な作業は黙々と行い意欲的
- ・昼休みなどにタブレットを大音量で使用してしまう

実習総合評価

（作業内容）

前半：本人の得意な作業を中心。後半：苦手な作業（メンテナンスや清掃業務）。

- ・就労移行支援の体験を通して働く意識を持てるようになっていた。
- ・今回は持参した漫画などを読み、昼休みは穏やかに過ごせていた。
- ・実習2回目ということもあり作業も慣れた様子で、比較的集中して行えていた。
- ・先生と事前に「実習に向けて」というテーマで話し合いをしていたこともあり、太郎さんが興味を持てる作業に取り組み、情緒が安定していたことから卒業後の受け入れを前向きに検討している。